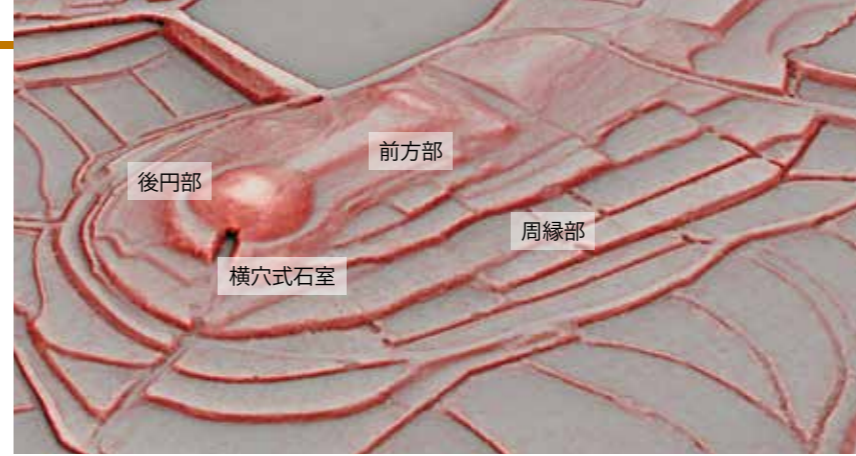


ここまで分かった！こうもり塚古墳

問い合わせ 観光プロジェクト課文化財係 ☎0866-92-8363



<こうもり塚古墳の墳丘（南上空から）赤色立体地図※>

【写真提供：岡山県古代吉備文化財センター】

※赤色立体地図とは、地形を人の目で判別しやすい赤色で立体的に表現した地図。急な斜面ほど赤く、平坦な地形は白く表現することで、細かな地形の凹凸を表現することができる

総社市南東部から岡山市に広がる一帯は、全国的に有名な史跡が集中して存在していることから、「吉備路風土記の丘」として親しまれています。その吉備路の中心に位置しているのが、こうもり塚古墳です。

昭和42年に、こうもり塚古墳の横穴式石室で初めて、学術的な発掘調査が岡山大学と岡山理科大学の協同行われました。

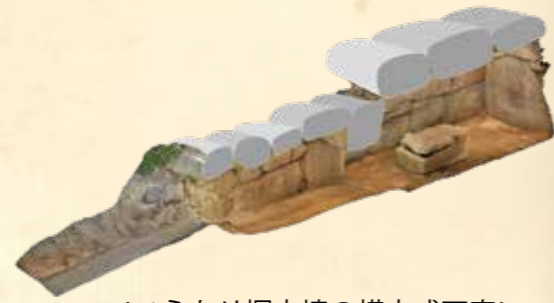
その後、令和3、4年度に岡山県古代吉備文化財センターが、墳丘の発掘調査を実施しました。この調査から見えてきた、こうもり塚古墳の実態を紹介します。

全国屈指の横穴式石室！

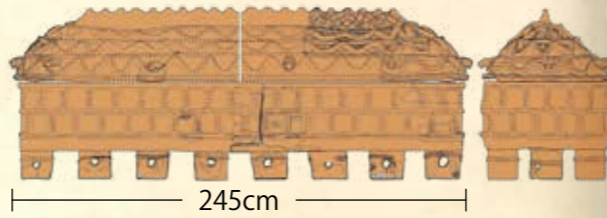
こうもり塚古墳の後円部には、県内最大の全長約19.9mの横穴式石室があります。当時の有力豪族である蘇我氏の墓とされる奈良県石舞台古墳（全長約19.1m）と比べても遜色のない規模を誇ります。

石室内では、死者を埋葬した石棺と陶棺が発見されています。石棺は、蓋と身をそれぞれ一つの石からくりぬいたものです。石棺の素材は、古墳から25km以上も離れた井原市産の貝殻石灰岩（浪形石）を利用しています。この石材を利用した石棺は、全国で5例しかない貴重なものです。

陶棺は焼き物の棺で、ばらばらの状態で出土しました。破片を並べて詳しく検討した結果、右図のように長さ約245cmの陶棺に復元できました。蓋には波状の突帯やトサカ状の飾り板を持つなど、装飾性が豊かなことが特徴で、県内でも最古級であるとともに、河内地域（現在の大阪府）の影響を受けている可能性があります。



<こうもり塚古墳の横穴式石室>



<陶棺の復元模式図>

【図面・写真提供：岡山県古代吉備文化財センター】

豊富な出土品が存在した！

こうもり塚古墳の横穴式石室は、残念ながら盗掘を受けていましたが、武器、馬具、須恵器、土師器などたくさんの副葬品が出土しました。その中で、環頭大刀は、環の中に鳳凰をあしらったもので、近畿地方の大王や有力豪族から、政治的な意図をもって配付された大刀と推測できます。

横穴式石室から出土した副葬品は、古墳に葬られた人物の生前の地位や、当時の人々の生活、習俗を知ることができる貴重な資料です。



<環頭大刀柄頭>

【写真提供：岡山県古代吉備文化財センター】

こうもり塚古墳は、一体誰の墓？

こうもり塚古墳は、墳長約96mの前方後円墳で、古墳時代後期（6世紀後半）のものであることが今回の調査で判明。同時期に奈良県橿原市に築かれた五条野丸山古墳の約3分の1の相似形に近いことが確認されました。

前方後円墳は全て同じ形ではなく、それぞれに違いがあり、古墳築造者の政治的な関係などが反映されていると考えられています。こうもり塚古墳は、黒媛の墓とする伝承もありますが、実は、欽明大王と密接なつながりがあった人物の墓であることが推測できます。

岡山県では、多くの前方後円墳が築かれてきましたが、こうもり塚古墳以後、同古墳より大きい前方後円墳は県内で発見されていません。このことから、こうもり塚古墳は吉備最後の大型前方後円墳と位置付けられます。



<五条野丸山古墳（左）とこうもり塚古墳（右）>五条野丸山古墳は欽明大王の墓とする説が有力。【出典】五条野丸山古墳：一瀬和夫・荒木瀬奈「橿原丸山古墳測量調査」『京都橘大学文化財調査報告2012』京都橘大学文学部2013年

企画展

ここまでわかった！こうもり塚古墳

日程 8/5(土)～9/3(日)
9:00～17:00(初日は13:00～)

場所 総社吉備路文化館
(2階展示室、上林1252)

- 内容**
- ・こうもり塚古墳の出土品の出張展示
環頭大刀柄頭1点、陶棺1基、馬具・武器など約50点、土器約30点ほか
 - ・パネル説明



<こうもり塚古墳から出土した土器（須恵器・土師器）>

【写真提供：岡山県古代吉備文化財センター】